



ファンタジーと その背景にある現実を解読し、 「自然と人間との関係性」の表象を探る

内藤 貴子 講師

■ 自己紹介

歩く樹木、荒野から飛来するドラゴン、波間から生まれ出る白い海馬や、草地に輪踊りの跡をのこす妖精たち。湿地帯に埋められた古代の人身御供や、土地開発・環境汚染で棲みかを追われるもの。神話の系譜をひく半人半獣、水かきのある青い瞳の女の子、グリーンマンと共生する庭師たち。これらはほんの一例ですが、私がいま研究対象として追っているのは、環境意識の変容史のなかでイギリス児童文学が描いてきた、自然そのものの表象、歴史文化的環境の表象、そして「自然と人間との関係性」の表象です。サイバー時代を生きる私たちが、大地や自らの生きる環境との絆を結ぶこと、結びなおすことについて考えています。

授業では、シェイクスピアの『ハムレット』には『ライオンキング』、古英語の叙事詩『ベオウルフ』には『ホビットの冒険』、ロマン主義にはクマのプーと、一見かけはなれて見える作品に通底するものを見据えて、文学がいかに人間の本性や時代性を捉えてきたのか、いかに既存の価値観を問い直す機能を担ってきたのか、なぜ文学は人生に必要なのかを探っています。『不思議の国のアリス』と映画『マトリックス』を比較するなど、アクロバティックな思考力も鍛えます。ピーター・パンの正体は？ネバーランドはどこにある？クマのプーさんとは誰か？百ちよ森の「ちよ」の意味は？——丹念に原作を読み、作品の成り立ちを学びながら、児童文学というジャンルの独自性も探ることで、よく知っている気がする物語の「文学的な深み」にふれてもらうのが、日々の喜びです。